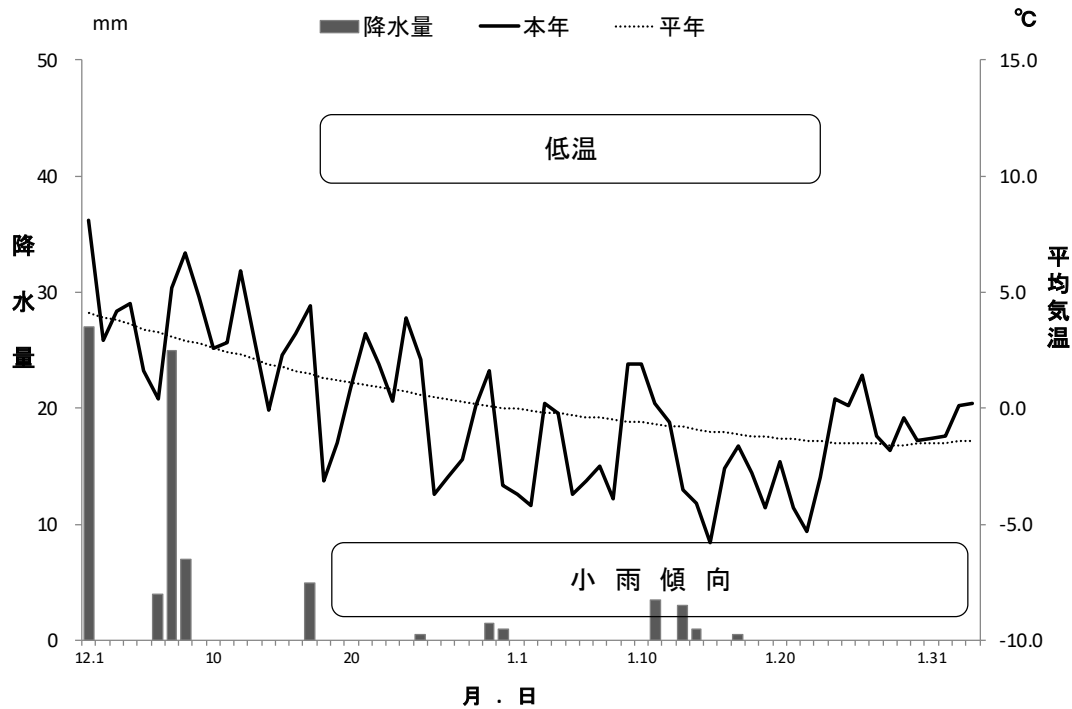


## 令和4年 作物技術情報第2号

### (2月初旬における麦の生育状況と1回目の追肥作業について)

#### 1 気象状況

令和3～4年 気象経過(穂高アメダス 12月1日～2月3日)



- ・12月末から、平年より厳しい寒さが続いています。また降水量も少ない状況です。

## 2 2月初旬の麦の生育状況

- ・ 2月初旬の管内の麦の生育状況は、概ね以下のとおりです。
- ・ 10月下旬播種の生育量は過剰～やや過剰で、葉の黄化が目立つ圃場もあります（特に大麦）。
- ・ 11月上中旬播種の生育量は並～やや少ないですが、追肥でコントロールしやすい生育量と思われます。
- ・ 11月下旬播種の生育量は少ないですが、葉齢は2葉程度まで進んでいます。

表1 越冬後の生育状況（2月1～3日調査）

播種日	葉令	分けつ	莖数 (m <sup>2</sup> )	生育	生育量
10月下旬	4.4～5.5	3	600～1000本	良	過剰～やや過剰
11月上旬	3.5～4.0	2	400～600本	やや良～良	並
11月中旬	2.5～3.0	1	300～400本	やや良～やや不良	やや少
11月下旬	1.5～2.5	0	200～300本	やや不良～不良	少

- ・ 松本市・塩尻市方面の麦は、安曇野市方面より生育がやや遅れていますが、生育は回復してくると思われます。  
近年、2～3月の気温が高く、追肥時期の生育量（莖数）が2月初旬の生育状況よりかなり多くなってしまいう年がありますので、今後の気象及び生育状況にご注意ください。

## 3 麦の1回目の追肥作業について

～～2回の追肥が麦栽培の基本です～～

- 1回目の追肥：越冬後～莖立期追肥（2月末～3月）  
目的は莖数確保→穂数確保→収量確保です
- 2回目の追肥：止葉展開期追肥（4月末～5月上旬）  
目的は粒の肥大・タンパク向上による品質向上です。

表2 追肥時期別の追肥効果

追肥時期	生育回復	莖数増加	穂数増加	1穂着粒数	収量向上	粒の肥大	タンパクの向上	空洞粒の減少	倒伏増加
越冬後	◎	◎	◎	△	◎	—	—	△	●
幼穂形成期	△	○	○	○	◎	—	—	△	●
莖立期	—	△	△	○	◎	△	△	△	▲
止葉展開期	—	—	—	△	△	◎	◎	○	—

注)◎:効果大、○:効果やや大、△:効果あり、—:効果なし、●▲は悪影響

## (1) 1回目の追肥時期と追肥量について

- 1) 「越冬後の1回目の追肥」が穂数確保（収量確保）のために重要です。  
 近年、2～3月の気温が高くなり、追肥時期の生育量（茎数）が2月初旬の生育状況よりかなり多くなってしまいう年があります（例：令和2年春）。  
 このため、2月下旬以降に圃場を再度観察していただき、麦の生育量にあわせた追肥をお願いします。
- 2) 越冬後の生育量と越冬後1回目の追肥時期・量については表3や、越冬後の麦生育チャート「越冬後㎡当茎数と1回目追肥時期・量の目安」を判断の目安としてご活用ください（支援センターのホームページにも掲載してあります）。
- 3) 2回目の追肥は、止葉展開期の生育状況（茎数）に応じて、窒素成分で2～3kg／10a施用します（パン用品種「ゆめかおり」は、出穂後に窒素成分で3～5kg／10aを施用）。  
 2回目の追肥時期と追肥量については、3月以降の技術情報でお伝えします

表3 越冬後の生育量と麦の1回目追肥時期・量の目安

生育状況	越冬後の茎数 (2月中旬～3月上旬)		追肥時期 追肥量 N:kg/10a (硫安kg/10a)		追肥の目的及び効果
	見た目	㎡あたり茎数			
極少	2葉程度 (出芽したが分けつ していない)	200本以下	2月末 N 4～5 (20～25)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
			または 2月末 N 2～3 (10～15)   3月中旬 N 1～2 (5～10)		
少ない	3cm幅位の帯状 所々とぎれている	200～300本 前後	3月初旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
やや少ない	3cm幅位の帯状	400～500本 前後	3月上旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
並 (良好)	5cm幅位の帯状 所々とぎれている	600～700本 前後	3月上～中旬 N 3 (15)		適正穂数確保と穂の充実
並(良好)	5cm幅位の帯状	700～800本 前後	3月上～中旬 N 2 (10)		適正穂数確保と穂の充実
多い	10cm幅位の帯状	1,000本以上	3月中旬 N 1～0 (5～0)		追肥量を減らし、時期も遅らせる。 場合によっては追肥しない。 → 茎数過多・過繁茂の抑制

## (2) 麦追肥1発肥料・一施肥二鳥を用いた省力栽培について

～～2回目の追肥をしない省力的な体系です～～

	施肥体系	◎ 1回目の追肥(10a当) (越冬後 3月上中旬)	◎ 2回目の追肥(10a当) (止葉展開期:4月末～)
慣行体系	基肥 BB or エルちゃん + 慣行追肥 体系	N 2～4kg 硫安 10～20kg	N 2～3kg 硫安 10～15kg
省力体系	基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系	N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない
省力体系	基肥 一施肥二鳥 + 追肥 1 回 体系	N 2～3kg 硫安 10～15kg	まかない

注) 上表のN(窒素量)は「大麦・めん用品種」の場合です。

パン用品種の場合は、追肥一発肥料は30kg/10a施用してください。

### 1) 麦追肥一発肥料を使用する場合の注意点

#### 【大麦・めん用小麦】の場合

基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系  
【品種:大麦、めん用小麦】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m <sup>2</sup> )	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期:4月末～)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	1000本以上 (畝間見えない)	まかない	追肥時期(3月下旬) N 3 麦追肥一発肥料 10kg	まかない	慣行追肥体系に変更することが望ましい
やや多	700～800本	まかない	追肥時期(3月中～下旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	
並～やや小	400～700本	まかない	追肥時期(3月上～中旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
小～極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3～4kg 硫安 15～20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	

- ① 生育過剰な圃場(畝間が見えないような圃場:茎数1000本/m<sup>2</sup>以上)
  - ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われます。
  - もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で10kg/10aとし、施肥時期も通常より遅らせて、3月下旬としてください。
- ② 過剰気味な圃場(茎数700～800本/m<sup>2</sup>以上)
  - ・追肥一発肥料の量を減らして15kg/10aとして、施肥時期も通常より遅らせて、3月中～下旬としてください。

- ③ 生育が並～やや少ない圃場（茎数 400～700 本／㎡未満）
- ・追肥一発肥料は基準量（20kg／10a）を施肥してください。施肥時期は生育量に応じて3月上～中旬としてください。
- ④ 生育が小～極小な圃場（茎数 300 本／㎡未満 分けつしていない）
- ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15～20kgを施肥してください。
  - その後3月中旬に、麦一発追肥を15kg／10aを施肥してください。

## 【パン用小麦：ゆめかおり】の場合

基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系  
 【品種：パン用小麦 ゆめかおり】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(㎡)	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (出穂～開花期:5月上旬)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	900本以上 (畝間が不明瞭)	まかない	追肥時期(3月末) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	慣行追肥体系に変更することが望ましい
やや多	700～800本	まかない	追肥時期(3月中～下旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
並～やや小	400～600本	まかない	追肥時期(3月上～中旬) N 9 麦追肥一発肥料 30kg	まかない	
小～極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3～4kg 硫安 15～20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	

- ① 生育過剰な圃場（畝間が見えないような圃場：茎数 900 本／㎡以上）
- ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われます。
  - もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で15kg／10aとし、施肥時期も通常より遅らせて3月末としてください。
- ② 過剰気味な圃場（茎数 700～800 本／㎡以上）
- ・追肥一発肥料の量を減らして20kg／10aとし、施肥時期も通常より遅らせて、3月中～下旬としてください。
- ③ 生育が並～やや少ない圃場（茎数 400～700 本／㎡未満）
- ・追肥一発肥料は基準量（30kg／10a）を施肥してください。施肥時期は生育量に応じて3月上～中旬としてください。
- ④ 生育が小～極小な圃場（茎数 300 本／㎡未満 分けつしていない）
- ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15～20kgを施肥してください。
  - その後3月中旬に、麦一発追肥を15kg／10aを施肥してください。

## 2) 基肥に一施肥二鳥を使用してある場合の注意点

茎数確保のため、越冬後の生育状況にあわせて硫安を施肥してください。  
追肥時期・追肥量については下表を参考にしてください。

基肥 一施肥二鳥 + 追肥1回 体系  
【品種: 大麦、小麦】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m <sup>2</sup> )	茎数確保の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期: 4月下旬~)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	1000本以上 (畝間見えない)	追肥時期(3月中旬) N 0~1kg 硫安 0~5kg	まかない	茎数確保の追肥は行わないことが望ましい
やや多	700~800本	追肥時期(3月上旬) N 1~2kg 硫安 5~10kg	まかない	
並~やや小	400~600本	追肥時期(3月上旬) N 2~3kg 硫安 10~15kg	まかない	
小~極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3~4kg 硫安 15~20kg	まかない	

## 3) その他の注意事項

- 1) 過繁茂で著しく黄化している場合で、1回目追肥まで間がある場合は、葉色回復を目的として、1回目追肥とは別に、硫安でN 1 k g / 1 0 a 程度を施肥してください。
- 2) 「しゅんよう」「ゆめかおり (パン用品種)」は茎数が増えやすい品種なので、施肥量には注意して下さい。  
多追肥 → 茎数過多 → 穂数過多 → 倒伏
- 3) 塩安を使用する場合、硫安より窒素成分が高い ( 2 5 % ) なので、まき過ぎに注意して下さい。

N5kg→塩安 20kg、 N4kg→塩安 16kg、 N3kg→塩安 12kg、 N2kg→塩安 8kg  
硫安 25kg →硫安 20kg →硫安 15kg →硫安 10kg

## 4) 積雪時の麦追肥について

- ① 基本的には、雪がとけて麦の生育状況を見てから、追肥時期・量を判断して追肥してください。  
積雪で判断が難しい場合は播種時期と麦生育チャートをご参考ください。

- ② 雪どけを待つと追肥時期を逃す場合や、雪どけのぬかるみや停滞水で、施肥作業が困難になる場合は、ほ場状況を見て作業が可能なら、多少の積雪があるうちに追肥を行っても差し支えありません。

この場合、ほ場での播きムラにご注意ください。また、積雪中での作業になるので、用水路やほ場への転落・転倒に十分注意して作業してください。

ブロードキャスター等で追肥作業する場合は、雪や土の締まっている午前中に作業してください（作業時のぬかるみ防止）。

#### 4 湿害対策

- ・ カミ雪のように一時的な大雪の場合は、その後の降雨や気温上昇に伴い、一気に融雪して圃場が湛水してしまう場合があります（写真）。  
このような圃場は湿害を受けやすくなります。これからカミ雪の季節を迎えるので注意が必要です。
- ・ 水口は止まっているか（水路からの雪解け水の流入防止）、排水口・排水路はつまっていないか（圃場の停滞水防止）を今一度確認していただき、湿害対策に万全を記していただくようお願いします。

